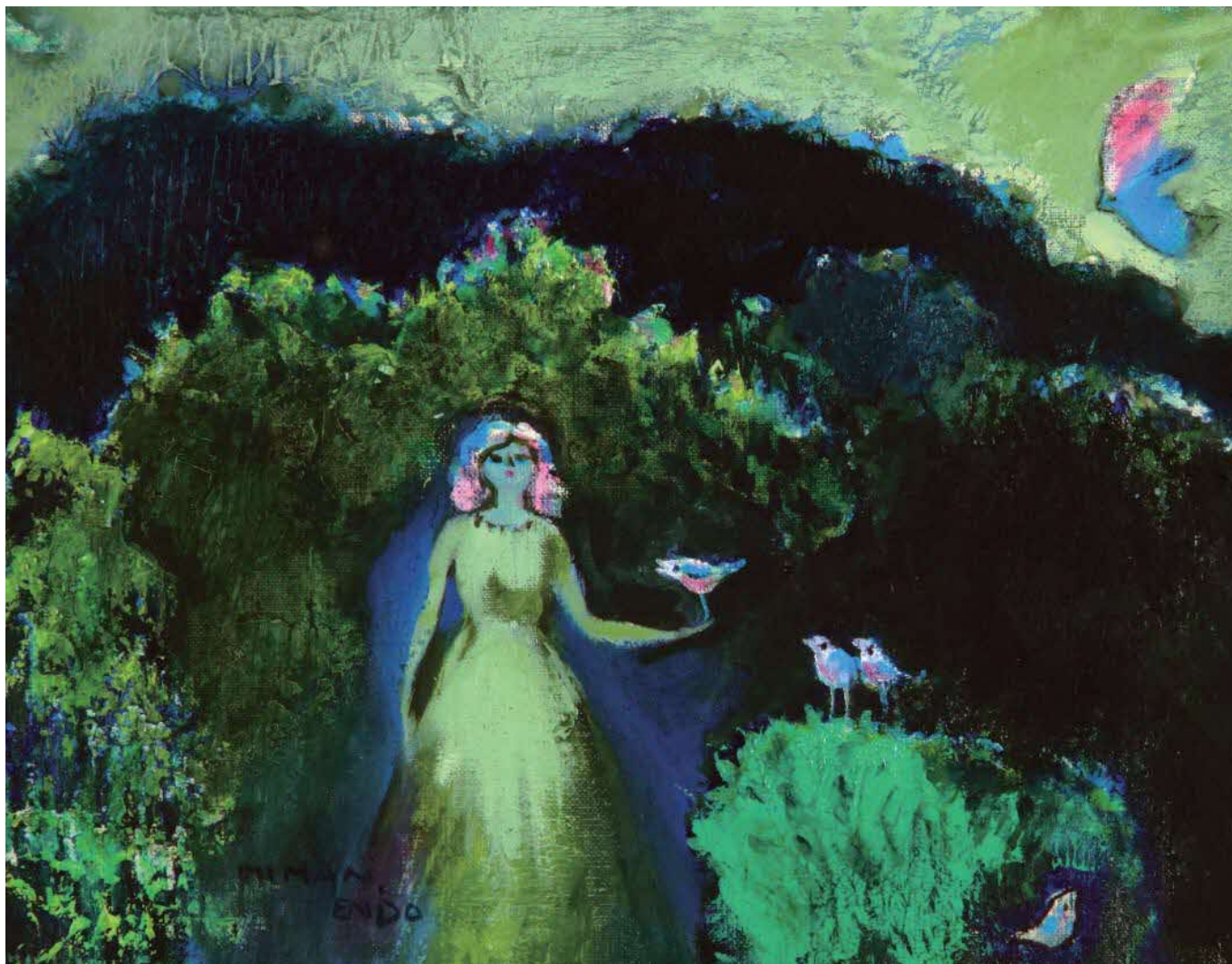


# 美術博物館だより

News Letter From Tomakomai City Museum



遠藤ミマン《鳥と妖精》1977

## 目次 Contents

### 01 特集 “機械×身体” — 託された夢と欲望 特別展 「生誕100年 | ロボットと芸術～越境するヒューマノイド」

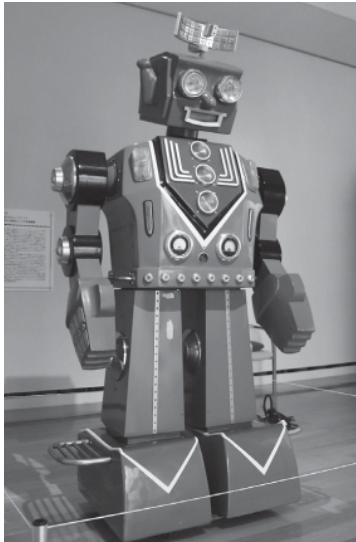
- 02 企画展コラム1 —豊かな川の生態系 企画展「水と生命～川と生き物のつながり～」
- 02 企画展コラム2 220年の時を越えて～念願の新資料発見
- 02 企画展コラム3 これまでとは違う見方を—企画展「総天然色！考古資料のあざやかな世界」—
- 03 クローズアップ1 坂東史樹《小さくて深い空》模型部分が苫小牧市へ
- 03 クローズアップ2 収蔵展示室内での資料展示
- 03 活動紹介1 コロナ禍での取り組み
- 04 活動紹介2 絶滅危惧種のニホンザリガニを発見！
- 04 勇武津資料館通信／埋文センター活動報告
- 05 報告 令和2年度事業記録
- 06 学芸員紹介 ～私たちが館でお待ちしています！～
- 07 館長コラム No.8 / 令和3年度展示会情報／収蔵資料紹介 展示室から／PR 次回特別展  
表紙の写真／編集後記



“機械×身体” — 託された夢と欲望  
特別展「生誕 100 年 | ロボットと芸術～越境するヒューマノイド」



子ども広報部「びとこま」の活動で本展を取材する子ども記者たち



相澤次郎《ガイドロボット「一郎君」》1959  
(公益財団法人国際医療福祉教育財団蔵)



津田光太郎《放浪の旅人メカ》2019 (作家蔵)



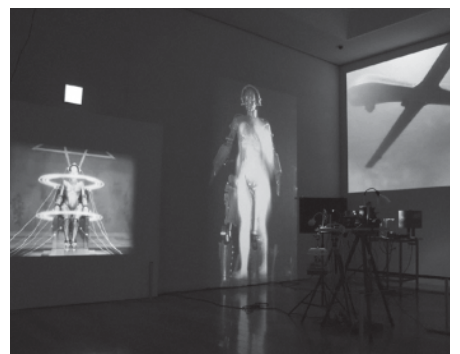
西尾康之《Traces of legs》2020 (作家蔵)



大森記詩《Training Day-Patchwork Super Robot》2020 (作家蔵)  
と成田亨《キングジョー初稿》1967 (青森県立美術館蔵)



第三幕「機械×身体～美術史にみる想像と創造」展示風景



伊藤隆介《Mは、マーチ(行進)のM》2020 (作家蔵)

今では当たり前のように使われている「ロボット (robot)」という言葉ですが、その単語が初めて登場したのは、チェコの文学者カレル・チャペック (1890-1938) の戯曲『R.U.R.』 (1920) の作中においてでした。その言葉の誕生100年を機に開催した本展では、人間の身体を模したロボット「ヒューマノイド」に焦点を当て、機械と身体、科学と芸術の両者が融合した同モチーフを、複合的な視座から見つめなおしました。

第1幕「ロボットの黎明期～ヒューマノイドの誕生と受容」では、チャペックの『R.U.R.』の関連資料をはじめ、北海道帝国大学 (現・北海道大学) 教授を退官後、東洋初の人型ロボット「學天則」を制作した西村真琴 (1883-1956) の写真資料、そして、「ロボット博士」と呼ばれた夕張出身の相澤次郎 (1903-1996) が手掛けたガイドロボット等を展示しました。

第2幕「変容するヒューマノイド～時代の象徴としての自動機械」では、映画『メトロポリス』 (1926) をはじめ、同作に登場する女性型ロボット・マリアのイメージに着想を得た伊藤隆介 (1967-) の新作インスタレーション (架設展示)、ロボットを作中に取り入れた津田光太郎 (1993-) の新作を含む絵画等を展示し、そのイメージの変容の一端を紹介しました。

第3幕「機械×身体～美術史にみる想像と創造」では、20世紀の新興芸術運動の影

響を受けた作家の作品に見られる機械と身体を掛け合わせたイメージを紹介。女性像の歩行の動きをフェティッシュに再現した美術家・西尾康之 (1967-) の新作インスタレーションもご覧いただきました。

第4幕「キャラクターとしてのロボット～大衆文化への浸透」では、戦後日本の大衆文化においてキャラクター化され普及していったロボットについて、ウルトラシリーズのデザインでも知られる彫刻家・成田亨 (1929-2002) の《キングジョー初稿》と共に、同作に着想を得た大森記詩 (1990-) のプラモデルを素材とする新作等により紹介しました。

第5幕「拡張するテクノロジー～ロボティクスの現在」では、現代社会におけるロボット・イメージの拡がりに着眼点をおき、近年脚光を浴びているAI (人工知能) に関する北海道大学情報科学研究院の研究成果や、バーチャルシンガー「初音ミク」の映像コンテンツ等を紹介しました。

人間の夢や欲望の映し鏡ともいえるロボットは、時間軸や地域、分野等の境界を越えて浸透し続けています。新型コロナウイルスの感染拡大を経て「分身」としてのロボットが改めて重宝されるなど、社会におけるその役割は過渡期にあるといえるでしょう。本展の開催が現代社会や人間存在のあり方について再考するきっかけとなったのであれば幸いです。

細矢 久人 (主査・学芸員/美術)

## 豊かな川の生態系 —企画展「水と生命～川と生き物のつながり～」—

### 企画展 コラム 1



展示風景

みなさんは苦小牧市を流れる川をいくつか知っていますか？実は名前がついている川だけでも30以上あります。市街地にも多くの川が流れているため、市民の方にとって川は身近な存在ではないでしょうか。

川は生命の動脈と言われています。森林から上流にもたらされるたくさんの落ち葉は、水生昆虫の餌となり、さらに水生昆虫を食べる鳥や魚など多くの川の生き物を支えています。また、樽前山に降った雨は、厚く覆われた火山灰に浸透する過程でミネラルが豊富に添加されたおいしい水となり、私たちの生活を潤します。このような川がもたらす恵みの素晴らしさを伝えたいと思い、今回の企画展を開催しました。

開催にあたって悩んだのが、川の生態系の重要な生き物である水生昆虫です。当館には水生昆虫の標本がほとんど無

かったため、調査を兼ねて採集し、自前で標本を作りました。実は水生昆虫の採集に適した季節は真冬です。氷点下の中、胴長と業務用の防寒手袋、捕獲用の網をたずさえていくつもの川に出かけ、石の下などに潜んでいる虫たちを採集しました。水中の様子をよく見るためにサングラスもかけていたので、さぞ怪しい姿だったことでしょう。ですが、きれいな環境に生息する種類が多く見つかり、改めて苦小牧の川の豊かさを感じることができました。

企画展では、これらの標本などを用いて、川の成り立ちや生態系、川に関する絵画など4部構成で展開しました。コロナウイルス拡大の影響で会期は短縮となりましたが、約1,100名の方にご来館いただき、大変感謝しています。

江崎 逸郎（主任学芸員／自然史）

### 企画展コラム2



歴史見学会 有珠善光寺にて



展示風景

## 220年の時を越えて～念願の新資料発見

寛政12(1800)年、江戸幕府の命により、八王子千人同心千人頭原半左衛門とその弟原新介は同心子弟100人を率いて蝦夷地へと向かいました。原半左衛門は50人を引き連れて武蔵国八王子(現在の東京都八王子市)から蝦夷地のシラヌカ(白糠)へ、新介はユウフツ(勇払)に入り、約4年にわたり蝦夷地の防衛と開拓に従事します。このことがご縁となり、苦小牧市と八王子市、日光市は姉妹都市提携を結んでいます。八王子千人同心の蝦夷地移住220年を迎えて企画した展示会「八王子千人同心と蝦夷地」では、19世紀に2度にわたり行われた千人同心の蝦夷地移住について紹介しました。

展示会の目玉となったのは、開幕の数か

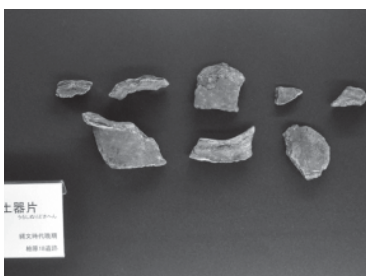
月前に所在が確認された<sup>はらたねあつほうのうわにぐち</sup>「原胤敦奉納鰐口」(釧路市無量山自然院大成寺所蔵)という新資料でした。鰐口とは、神社仏閣の正面に吊り下げられる鈴のような仏具です。鰐口に刻まれた<sup>きょうわがんかのとりしがつじゅうしちにち</sup>「享和元辛酉四月十七日」<sup>とうちやうし</sup>「東都朝士<sup>たいらせいほらしたねあつ</sup>平姓原氏胤敦<sup>しらぬからんじゆ</sup>」<sup>さんじゅうばんしん</sup>「白糠鎮守三十番神」などの文字から、原半左衛門胤敦が、享和元(1801)年にシラヌカの地へ納めたものであることが判明しました。

これまで千人同心の蝦夷地移住に関する資料が乏しく、当時の様子が断片的にしかわかっていない状況において、今回の鰐口の発見が、彼らの活動の様子を知る重要な手がかりとなるのは間違いのないでしょう。

佐藤 麻莉(学芸員／歴史)

### 企画展コラム3

## これまでとは違う見方を —企画展「総天然色！考古資料のあざやかな世界」—



漆塗土器破片の展示

皆さんは考古資料というどのような色のイメージをお持ちでしょうか。土の中から掘り出されるため、くすんだ茶色のイメージをお持ちの方が多いと思います。今回の企画展ではそんな考古資料に対する色のイメージを一新するように、色あざやかな資料をご紹介します。普段の考古学の展示では、土器や石器といった資料の属性順、もしくは時代の古いから新しい順に資料を並べることが多いです。しかし今回は、漆やコハクの赤色、ヒスイやアオトラ石の青色、黒漆や蛇紋岩の黒色、メノウの白色と

色ごとに資料を並べてみました。また、土器の破片資料や石斧の未製品といった普通の展示ではあまり用いられない資料も展示しました。これまで収蔵庫に眠っていた資料も見せ方を変えるとあざやかな世界を見せてくれる資料になります。数千年前のあざやかな世界を堪能し、当時の人々の色彩感覚に思いを馳せるとともに、考古資料の新たな魅力を感じていただければと思います。

岩波 連(学芸員／考古学)



## クローズアップ1



「中庭展示 vol.13」展示風景（2019）



市庁舎12階展示回廊での展示の様子（2020）

## 坂東史樹《小さくて深い空》模型部分が苦小牧市へ



坂東史樹《小さくて深い空》2019（部分）※撮影：山岸誠二

中庭展示 Vol.13 を機に、美術家・坂東史樹氏（1963 - ）により制作された《小さくて深い空》（2019）が2020年12月に苦小牧市に寄贈されました。本作は、Web上のマップや航空写真等を参照のうえ、苦小牧西港とその一帯の臨海工業地帯を再現したものです。

作者の坂東氏は、夢の情景や印象深い風景を模型作品として再現する作風を展開。近年は都市景観に心象を重ねる連作を手掛けています。1,200点にも及ぶ光ファイバーによる幻想的な光に彩られた本作は、当初、「空」を象徴する円筒状の布が垂れ下げられ、模型の一部が照らし出されていました。ここにおいて坂東氏は、港の情景を再現しながらも、「空」という要素を加えることによって、個々人が抱える複雑な心象を表そうとしたのでした。

本作において、「地表」は心の表層としての「意識」を、「海洋」はその深層にある「無意識」を暗示しているといいます。そうした視点から本作を眺めたとき、石油コンビナートを心臓部とする港湾の機構自体が人間の活動母体を象徴しているようで、地表を照らす無数の光には、循環する生命の営みと共に、集積的なエネルギーが仮託されているようにも映ります。

坂東氏よりご寄贈いただいた本作は、現在、苦小牧市庁舎12階展望回廊（北側）にてご覧いただけます。

細矢 久人（主査・学芸員／美術）

## クローズアップ2



戦後75年特集展示風景

## 収蔵展示室内での資料展示

1階と2階にある収蔵展示室では、館に収蔵されている資料を不定期で入れ替えながら展示しています。今年は2階の収蔵展示室において、戦後75年の節目の年として戦争資料の特集展示を行いました。昭和20年7月14・15日にあった苦小牧空襲、米軍機の墜落事件、戦時下の人々の様子といったテーマに沿って、実際に市内で収集された弾丸や、苦小牧から出征した兵士が身に着けていた千人針などを公開しました。

また、当館のアイヌ民族資料が人気漫画「ゴールデンカムイ」（集英社）に登場したとの嬉しいニュースを受け、該当のたばこ入れと作者の野田サトル先生からいただいた色紙を、漫画内に出てくる苦小牧の競馬場の歴史についての解説パネルとともに展示しています。今後も様々なテーマを取り上げつつ、収蔵品をご紹介します。小杉 宇海（学芸員／歴史）

## 活動紹介1



## コロナ禍での取り組み

猛威をふるった新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、当館も3月4日から3月23日に最初の臨時休館、4月20日から5月11日にも再度休館となり、寂しい春となりました。

休館中は企画展準備や普段手をつけられない館内の整理を実施したほか、北海道博物館から始まった「おうちミュージアム」という取り組みに参加しました。これは外出自粛要請等により自宅で過ごさざるを得ない子どもたちのために「おうちでミュージアムを楽しもう」という趣旨ではじまりました。当館も植物のぬり絵や土偶のお面、昔のすごろく等、博物分野の学芸員がそれぞれアイデアを出し合いました。暗いニュースばかりになりがちな時期でしたが、複数の新聞で取り上げていただきました。

現在は通常開館していますが、毎朝の作業に館内の消毒といった感染予防対策が加わるなど、新しい日常を迎えています。博物館・美術館はこのような時代にどう変化していけるのか、日々試行錯誤が続いています。

沖津 かな（学芸員／自然史）

## 活動紹介2

### 絶滅危惧種の ニホンザリガニを発見！

ある川で水生昆虫の調査をしていた一昨年の11月。川面をすくった網の中にザリガニが入っているのを見つけました。「もしかして…」と思い、写真と大きさを測って放流し、

博物館に戻って調べたところニホンザリガニでした。

ニホンザリガニは、世界中で北海道と東北地方の一部にしか生息しない日本固有種で絶滅危惧種に指定されている希少な生き物です。苫小牧の最近の生息情報はほとんど無く、川や湿地などの生息環境が大きく変わったため、消滅したと思われていました。

これを機に、企画展「水と生命」や新聞でニホンザリガニの目撃情報と呼び掛けたところ、十件ほどの情報が寄せられました。ほとんどが数十年前のものでしたが、この情報を頼りに市内の川や湿地を探したところ、さらに2か所で生息を確認しました。

ニホンザリガニは水辺の環境の指標になる存在です。当館では今後も調査を続けていきますので、もし苫小牧市内で「ザリガニを見たことがある！」という方がいましたら、ぜひ情報をお寄せください。

江崎 逸郎（主任学芸員／自然史）



見つかったニホンザリガニ

### 勇武津資料館通信

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4月21日～5月10日まで臨時休館が続きましたが、12日からやっと平常開館となりました。ただ、5月と6月の実施予定だった「べこもちをつくろう」と「はじめての裂織」が中止となりました。

その後の行事は予定どおりに実施されましたので、主なものを以下に報告します。

ふるさと歴史講座の「旧勇払川河口についてⅡ」（1月）では、旧勇払川周辺の航空写真から見た魚場や橋などの様子、「動物考古学的に見た勇払」（2月）では、勇払川右岸の土砂採取地点で見られた動物遺体について、「日高

門別の戦跡」（2月）では、日高町門別、厚賀沖の沈没船・陸軍電探基地などの戦跡についての講座でした。

ふるさと探訪の「勇払の植物観察」（7月）では、弁天地区の植生をブラウンプラン法で検証しました。「勇払歴史散歩」（9月）では、徒歩で移動しながらの歴史解説で、特に、波切不動尊堂に残る「妙見堂」の扁額がなぜそこにあるのかなどの推測が興味深い。「勇払海岸の生き物・漂着物調査」（10月）では、双眼鏡の使い方のレクチャーや、用意した鳥類の標本などが好評でした。

機織り体験教室の小・中学生対象の「手織りマフラーに挑戦」（6月）では世界に一つだけのマフラーの完成に、喜びもひとしおのようでした。

生活体験教室では、「藍染めに挑戦」（8月）、シカの角でのペンダント（10月）・キーホルダー（11月）や、「くん製づくりに挑戦」（1月）も三密を避けながらの開催でしたが、定員超えるほどでした。新年度もコロナ禍の早期収束を願いながらも頑張りたいですね。

二階堂 啓也（事務員）



三密を避け屋外での「藍染めに挑戦」

### 埋文センター活動報告

今年も苫小牧市埋蔵文化財調査センターでは市内の遺跡の調査を行いました。工事立会が3カ所、試掘調査が2カ所、発見した落とし穴の調査を1カ所で行いました。その結果、2カ所の周知の遺跡の範囲確定と新たに5つの遺跡の登録を行いました。美沢地区で行った調査では落とし穴が発見され、記録の為に発掘調査を行いました。長軸で約1.8m、短軸で約74cm、深さ約1.3mの細長い落とし穴で、エゾシカを獲るために作られたと考

えられます。細長く深い構造のため徐々に掘りづらくなり、一つの落とし穴で調査に3日ほどかかります。苫小牧市内ではこうした落とし穴が700基以上見つかっており、道内でも有数の検出数となっています。また、苫東柏原地区で行った試掘調査では6つの遺跡を新たに確認しました。これで市内の遺跡数は305か所となっています。

岩波 連（学芸員／考古・埋蔵文化財調査センター兼任）



落とし穴の調査



# 報告

## 令和2年度 事業記録

### 展示事業

#### 《特別展》

##### ■生誕100年 | ロボットと芸術 ～越境するヒューマノイド

会期：令和2年7月18日（土）～9月13日（日）

入場者：2,911名

共催：公益財団法人北海道文化財団

協力：北海道大学情報科学研究院ヒューマンコン  
ピュータインタラクション研究室／クリプト  
ン・フューチャー・メディア株式会社／株式会  
社ドリームホビー／苫小牧本店／古趣 北乃博物館  
後援：北海道／苫小牧商工会議所／苫小牧信用金庫／  
北海道新聞苫小牧支社／株式会社苫小牧民報社  
／株式会社三星

①スライドトーク（全2回）

参加者：17名

②ロボビエー動態展示 & 操作体験

日：8月29日（土）

講師：水丸和樹氏（北海道大学大学院情報科学院）

参加者：20名

#### 《企画展》

##### ■水と生命～川と生き物のつながり～

会期：令和2年5月12日（火）～6月21日（日）

入場者：1,115名

協力：サケのふるさと千歳水族館／札幌市博物館活動  
センター／北海道大学北方生物園フィールド科  
学センター／苫小牧研究林／北海道博物館／CISE  
ネットワーク

後援：苫小牧信用金庫／北海道新聞苫小牧支社／株式  
会社苫小牧民報社／株式会社三星

①担当学芸員による展示解説会（全3回）

参加者：29名

##### ■八王子千人同心と蝦夷地

会期：令和2年10月10日（土）～12月13日（日）

入場者：4,626名

協力：七飯町歴史館／函館市中央図書館／八王子市郷  
土資料館／八王子千人同心旧交會／北海道大学  
附属図書館／無量山自然院大成寺／門別本町連  
合町内会稲荷神社維持委員会

後援：苫小牧信用金庫／北海道新聞苫小牧支社／株式  
会社苫小牧民報社／株式会社三星

①展示解説会（全6回）

参加者：74名

②甲冑ストラップをつくろう

講師：細川正直氏（苫小牧市科学センター元館長）

日：11月23日（月・祝）

参加者：19名

##### ■紙とアート 吉田傑のダンボールといきもの

会期：令和2年10月10日（土）～12月13日（日）

入場者：4,626名

協力：サケのふるさと千歳水族館

後援：苫小牧信用金庫／北海道新聞苫小牧支社／株式  
会社苫小牧民報社／株式会社三星

①担当学芸員による展示解説会（全2回）

参加者：13名

②作者による公開制作

参加者：31名

##### ■総天然色！考古資料のあざやかな世界

会期：令和3年1月9日（土）～3月7日（日）

協力：恵庭市教育委員会／白老町教育委員会／千歳市  
教育委員会／函館市教育委員会／平取町教育委  
員会／八雲町教育委員会

後援：苫小牧信用金庫／北海道新聞苫小牧支社／株式  
会社苫小牧民報社／株式会社三星

①担当学芸員による解説展示解説会（全5回）

②まが玉をつくってみよう

日：1月23日（土）

参加者：20名

③講演会「発掘調査からわかるアイヌ文化」

日：2月6日（土）

参加者：53名

④講演会「ガラス玉が語るもの－丸い小さな世界から－」

日：3月6日（土）

#### 《収蔵品展》

##### ■イクパスイー祈り捧げるもの－

会期：令和2年5月12日（火）～6月21日（日）

入場者：1,115名

##### ■色と絵～彩のひみつ～

会期：令和3年1月9日（土）～3月7日（日）

#### 《中庭展示》

##### ■Vol.14 艾沢祥子「Weathering—風化—」

会期：令和2年5月12日（火）～9月13日（日）

入場者：4,446名

##### ■Vol.15 磯崎道佳「世界には塵ひとつない」

会期：令和2年10月10日（土）～12月13日（日）

入場者：4,626名

#### 《普及事業》

##### ■美術博物館大学講座

対象：一般 登録者数：113名

④「ロボットと大衆文化」

講師：伊藤隆介氏（北海道教育大学岩見沢校 教授）

日：9月21日（土）

⑤「北海道独自のアート表現を求めて」

講師：吉崎元章氏（札幌文化芸術交流センター

SCARTS プログラムディレクター）

日：10月24日（土）

⑥「幕末のユウフツ」

講師：佐藤麻莉（当館学芸員）

日：11月28日（土）

⑦「写真にみる王子争議における王子主婦連の活躍、  
その意識改革」

講師：岸伸子氏（札幌女性史研究会 会員）

日：12月12日（土）

⑧「タンチョウってどんな鳥？～市民で見守る絶滅危  
惧種～」

講師：瀧本宏昭氏（（公財）日本野鳥の会保全プロ  
ジェクト推進室保護区グループレンジャー）

日：1月16日（土）

⑨卒業式・「大地の成り立ちが語る生物の共通点～北  
海道と南方の島（隠岐・三宅島）」

講師：江崎逸郎（当館主任学芸員）

日：2月27日（土）

##### ■子ども広報部「びとこま」

共催：NPO法人樽前artyプラス

対象：小中学生 登録者数：11名

##### ■古文書解読講座

対象：一般

初級編（全3回） 参加者：50名

中級編（全2回） 参加者：25名

##### ■遺跡報告会

日：3月7日（日）

##### ■ミュージアムラボ

①縄文ポシエットをつくろう

日：9月22日（火・祝）

参加者：11名

②蚕のまゆから糸をとってみよう

日：11月7日（日）

参加者：11名

③樹脂封入標本づくり

日：11月14・15日



- 参加者：5名  
 ④クリスマスカードをつくろう  
 日：12月13日  
 参加者：7名  
 ⑤筆で書いてみよう  
 日：1月10日  
 参加者：6名

■無料開放日  
 あみゆー秋のサンクスデー  
 日：11月3日（日・祝）  
 参加者：340名

■見学会・観察会  
 歴史見学会「八王子千人同心の歴史にまつわる史跡をめぐる」  
 対象：一般  
 日：10月18日（日）  
 参加者：21名

■郷土学習  
 期間：9月～11月  
 対象：市内小学校19校3・4年生  
 参加者：1,262名

■学芸員実習生受入  
 日：8月18日（火）～8月28日（金）  
 参加者：7名

■ボランティア研修会（6回）  
 登録者数：36名

■総合学習・出前講座・講師派遣・アウトリーチ事業  
 日：随時  
 実施：13件

■新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった行事

- 企画展「水と生命」関連イベント  
川と湿地の“つながり”を歩こう
- 収蔵品展「イクパスイ」関連イベント  
ギャラリートーク
- 無料開放日 ゴーゴミュージアム
- 美術博物館祭 2020
- 大学講座①入学式・「千島アイヌから見た日露交流史」  
講師：鈴木建治氏（国立アイヌ民族博物館 研究員）
- 大学講座②「公文書館資料に見る、実現しなかった4つの“札幌オリンピック”」  
講師：高井俊哉氏（札幌市公文書館 元館長）
- 大学講座③「北海道の木彫り熊」  
講師：大谷茂之氏（八雲町郷土資料館・木彫り熊資料館 学芸員）
- 教員のための博物館の日

- ・職場体験
- ・社会科自由研究発表会
- ・古文書解読講座初級編

※各事業の入場者・参加者数は令和3年3月31日現在のものとする。  
 ※展示事業一覧は、企画展名、開期、入場者数、関連イベントを記載。  
 ※協力等は該当事業のみ記載。  
 ※講師未記載は全て当館学芸員が担当

## 学芸員紹介 ～私たちが館でお待ちしています！～

苫小牧市美術博物館と勇武津資料館では館長以下、様々な専門分野を持つ学芸員、事務を担う事務員が協力して、研究・展示・教育などの事業に励んでいます。今回は、学芸員を個性豊かな写真とともにご紹介！わからないこと、聞いてみたいことなどがありましたら、ぜひお気軽に私たちにお声がけください。



ほそ や ひさ と  
 主 査 細 矢 久 人  
 担当分野：美術



え ぎ き い つ ろ う  
 主任学芸員 江 崎 逸 郎  
 担当分野：自然史



お き つ か ん な  
 学芸員 沖 津 かな  
 担当分野：自然史・書



お お た に あ き こ  
 学芸員 大 谷 明 子  
 担当分野：美術



い わ な み れ ん  
 学芸員 岩 波 連  
 担当分野：考古学



さ と う ま り 莉  
 学芸員 佐 藤 麻 莉  
 担当分野：歴史



こ すぎ う み 海  
 学芸員 小 杉 宇 海  
 担当分野：歴史



た て い し え り こ  
 学芸員 立 石 絵 梨 子  
 担当分野：美術



## 館長コラムNO.8

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当館および勇武津資料館でも4月21日から5月10日まで、3月に続き2度目の臨時休館を行いました。この措置に伴い、上半期の教育普及事業の多くが中止となったほか、企画展「水と生命」などの開幕延期が決まりました。一方、3月には北海道博物館が自宅でもミュージアム体験ができる「おうちミュージアム

を開き、当館もこの企画に賛同しオンラインでの発信を行いました。こうしたなか5月12日から（公財）日本博物館協会のガイドラインなどを参考に、体験型展示の撤去、職員による消毒などの対策を講じながら1階展示室に限定し開館しました。9月に入り、小学3・4年生対象の社会科授業「郷土学習」、「美術博物館大学講座」を対策を講じた上で実施。展示事業では7月に特別展「ロボットと芸術」、10月に企画展「八王子千人同心と蝦夷地」、「紙とアート 吉田傑のダ

ンボールといきもの」、1月には企画展「総天然色！考古資料のあざやかな世界」、「色と絵～彩のひみつ～」を開催しました。コロナ禍での実施は対策を講じつつも不安がありましたが、実物を見、学ぶことを求める方々から好意的な声を頂いたことに勇気づけられました。今後も社会情勢を注視しながら、展示や教育普及事業を継続することにより、多くの皆様が必要とされる施設であることを目標として職員一同努力してまいります。 武田 正哉（館長／歴史）

### 令和3年度 展示会情報

○観覧料  
一般 300 円 / 大学生・高校生 200 円 / 中学生以下無料  
※団体割引、免除規定があります  
※特別展（年1回）の観覧料はその都度定めます

○年間パスポート  
一般 900 円 / 大学生・高校生 600 円  
※特別展のみ特別展観覧料から一般 300 円、大学生・高校生 200 円を引いた料金がかかります

#### 特別展

■発掘された日本列島 2021  
7月31日（土）～9月12日（日）

#### 企画展

■コイノボリ大火と苦小牧消防史  
4月29日（木・祝）～7月4日（日）

■ラムサール条約登録 30 年  
ウトナイ湖・うつりゆく自然とその未来  
10月9日（土）～12月12日（日）

### ■ NITTAN ART FILE4 : 土地の記憶

1月15日（土）～3月13日（日）

#### 収蔵品展

■苦小牧ゆかりの書 蔵出し展  
4月29日（木・祝）～7月4日（日）

■絵画収蔵品展「鳥のいる風景」  
10月9日（土）～12月12日（日）

#### 中庭展示

■第一期 Vol.16 武田浩志  
4月29日（木・祝）～9月12日（日）

■第二期 Vol.17 澁谷俊彦  
10月9日（土）～3月13日（日）

美術博物館祭 2021 7月31日（土）～8月1日（日）

※展覧会の名称及び内容、時期等は予告なく変更する場合があります。ご了承ください。

### PR 次回 特別展

令和3年度の特別展は「発掘された日本列島2021」展です。文化庁などが主催となっている全国巡回展で、全国各地で行われている発掘調査で見つかる最新の成果を見ることができます。北海道では14年ぶりの開催です。普段なかなか見ることの難しい全国各地の資料を見ることが出来る機会です。ぜひお越しください！

#### 収蔵資料紹介

### 展示室から 旅のお供に船筆筒

これは「船筆筒」といい、船乗りたちが廻船の往来で使う金庫や衣装箱のようなものです。樺の木を主に用いた頑丈な作り鉄の金

具の装飾が施され、実用的でありながら重厚感のあるデザインが目を引く収納道具です。扉を開けると錠前のついた抽斗や箱が入っています。船筆筒は懸硯・帳箱・半櫃の3種類に大別でき、写真の船筆筒は帳箱の型に該当します。

18世紀後半以降、蝦夷地から北陸地方、上方へと廻る北前船が活躍します。船は蝦夷地や本州の産物を運び、物流の拠点であったユウフツ（勇払）にも寄港しました。船筆筒は北前船が航行する際に必要な書類や金銭などを守る旅の相棒でした。

佐藤 麻莉（学芸員／歴史）

#### 公式 Facebook・Twitter 更新中！



#### 表紙の写真 遠藤ミマン《鳥と妖精》（1977年）

作者の遠藤ミマン（1913 - 2004）は、1992年に美術館増設前の当館へ自らのコレクション110点を寄贈するなど、その設立にも貢献しました。遠藤は不安にみちた時代にも現実からほど遠い甘美なイメージを生み出すことで、安らかな気分を誘うことを美術家の役割として語っています。本作では、柔らかな緑色で描かれた妖精が青い鳥を手にとまらせて森のように佇み、豊かな色彩とあいまって詩情豊かなイメージを歌い上げています。

大谷 明子（学芸員／美術）

#### ■編集後記

今回は、「皆様により親しみを感じていただける美術博物館だより」を目指して各学芸員が執筆いたしました。その一環として顔写真入りの学芸員紹介も入れてみましたが、いかがでしたでしょうか？楽しんでいただければ幸いです。 小杉 宇海（学芸員／歴史）

苦小牧市  
美術博物館だより

令和3年3月31日発行・第8号

編集・発行：苦小牧市美術博物館（あみゅー） 〒053-0011 北海道苦小牧市末広町3丁目9-7  
TEL 0144-35-2550 FAX 0144-34-0408

URL <https://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/hakubutsukan/>

開館時間：9:30～17:00（入館は16:30まで） 休館日：毎週月曜（祝日の場合は次の平日）、年末年始